協育NEWS

「協育」という波紋を拡げます

会報誌臨時号
2015年6月30日発行
発行：NPO法人 大分県「協育」アドバイザーネット

総会の報告

H26年度 NPO法人 大分県『協育』アドバイザーネット総会

八川 徹

2015年6月13日(土)11時より、別府市にある大分県立社会教育総合センター第2研修室において、「2015年度定期総会」が開催されました。総会に先立ち、10時より行われた会員研修(スキルアップー1)では、おおいた観光特使の矢野大和氏による「コーディネータのちから」と題した口演を頂き、総会後の会員研修(スキルアップー2)では、「1人1情報の発信∩なにしちょん～」と題し、会員それぞれの近況報告や意見交換を行いました。

総会は、佐藤理事による成立確認のあと、議長に別府市の古庄由紀氏が選任されました。古庄議長の進行にて、2014年度の事業および決算の報告さらに監査報告がなされ、承認されました。補足として、中川顧問より別府溝部学園短期大学での温泉コンシェルジュ養成関連事業の報告があり、その事業において立ち上げたアプリ活用の案内がありました。また、任期満了に伴う役員(理事)改選で、甲斐田生嗣氏・山上伸子氏・八川徹氏の三名の退任と中川忠宣氏・足利悦子氏の新任および新体制の承認がなされました。これに伴い、**新理事長に中川忠宣氏**、従来3名であった副理事長職は1名となり園部副理事長、再任を含め6名の理事の体制で今後の運営を行っていくこととなりました。2015年度の事業計画・予算の提案では、事務局長の業務オーバーフローに伴う事務局員設置案が提案され、すべての項目が承認されました。会員の諸事情に配慮できるよう、会員資格の喪失に関する定款の改正が提案され、承認されました。

(前理事長 園部 秀靖さん)

(新理事長 中川 忠宣さん)

◆◇

定款の改正について

正会員(社員)としての継続の意思があるものの、転勤等様々な理由により活動が出来ないなど休会制度の必要性が出てきており、その間の会費の納入を免除し、将来、正会員(社員)として復帰できるように定款を改正しました。

1. 会員資格の喪失

第9条　正会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

＜＜改正前(旧)＞＞

(3)1年以上会費を滞納したとき。

＜＜改正後(新)＞＞

(3)2年を超えて会費を滞納したとき。

但し、会員の事情により申請があり、理事会が認めた場合は会費の納入を免除し休会とすることができる。休会の間は社員の資格を失する。

◆◇

(いつも元気な矢野大和さん)

矢野大和氏口演

コーディネータに必要な様々な資質をユーモアたっぷりにお話いていただき、会場は終始笑い声に包まれあっという間の1時間でした。「人としての魅力づくり」や「志縁(シエン)、仲とりもちのあり方」等たくさんの教示を持ち帰ることができました。 今後、この口演を自分のものへとし、それぞれの活動に活かされることでしょう。

1人1情報の発信∩なにしちょん～

会員相互の情報交換と意見交換の場を設け、 相談やアドバイス・自分の想い等リラックスした雰囲気の中話し合いました。今後もこのような場を設けることができるよう、県内各地で懇親会開催を検討してまいります。

＜＜今回の主な話題＞＞

- 子供は最高の宝者
- 自分の地域と先進地の違いを意識しながら活動
- さまざまなコーディネート活動を行っており、オーバーワーク気味
- 各自治体によるCSのしくみの違いについて
- 問題行動に対する対応の悩みについて
- CS運営の悩みについて
- 子育てサロン　ころころ　について
- 留学生と子どもたちの交流活動について
- こども公民館お助けデーについて

○ 和やかな雰囲気の中、いろんな意見が出ました。

第34回　生涯教育実践研究交流会 報告　①

副理事長　　園部　秀靖

（萱島かよさんの発表）

第1日目の実践発表の分科会で「協育」ネット会員の萱島かよさん（国東市協育ネットワーク　コーディネーター）が『「協育ネットワーク」の構築―地域総ぐるみによる教育の創造―』というタイトルで発表した。その概要は，＜事業1＞学校支援 ○学校が求める学習支援等に地域人材を派遣 ＜事業2＞子ども教室（ゆめさき体験スクール） ○体験活動を通じて異年齢交流の促進（年間30回） ○染物・エコバック・折紙・正月飾り・音楽祭・犬と遊ぶ・やせうま・焼き芋等。更には、七島いのコースター・オリーブオイルつくり・キウイの収穫等、国東ならではのものも。＜事業3＞学びの教室 ○学習習慣の定着・基礎基本の再認識・社会性の醸成（水曜教室年間30回・土曜教室年間10回 ※中学生65名は土曜教室のみ ※高校生の先生の出番もある）《期待される効果》○コーディネーターの一元化による総合的な子ども支援体制を構築 ○学校教育活動の一層の充実 ○学習成果の還元と生きがいづくり ○大人社会の再構築と地域の教育力の向上《実践の成果》 ○地域における学校支援活動として文部科学大臣表彰を受けている。（・基礎学力の向上・家庭・学校・地域が連携し、地域総ぐるみの子育てが進んでいる）大分県吉野中のPTA活動「強い翼をつくるための心と体の栄養 子どもたちを青空に!」も心に残る素晴らしい実践報告だった。「身体の栄養」と「心の栄養」に着目した各種の活動をPTAの各部門毎に展開した。学校や生徒会も連携して取り組み、「自己肯定感」の涵養を、生徒会は「カッチョイ活動」と称して自分たちの長所を見つける活動を行った。実践の成果として、保護者は「子ども達との関わり方の意識度」が向上したと、子ども達はそれぞれに「長所」や「人とのつながりの大切さ」を自覚したと答えていることを挙げている。 他にも26の分科会発表があり、多くは回れなかったが、膨大な資料を入手できた。○「土曜日の自然塾」（子どもの欠損体験を補完・人や自然を繋ぎふるさとを体感させる） ○「公民館の学びのカフェ」（学校と地域を繋ぎ地域課題の解決を図る） ○「大豆100粒運動」（「食糧自給」・「食の安全」の取り組み） ○「発酵食品に注目した味噌づくり」 ○「図書館が挑む科学への関心を育てる事業」（地域コミュニティの活性化） ○「小中高子ども連合の実践活動」（町の課題解決・活性化） ○「森林ボランティア活動」（植樹・山林整備・炭焼き・自然観察・茸の栽培等） ○「海を守る会のクリーンビーチ作戦」 ○「ふるさとを知り、学ぶ総合的学習の学社連携（農協・商工会等）」（米づくり・神楽・大豆の栽培・ふるさとの料理等）等々。参加して初めて知る現代社会の厳しい現実と様々な課題。これを克服しようとする各所での地域創生・活性化の協働的な実践はとても刺激的で、 新たな展開を促す多くの示唆を与えてくれた。

（三浦清一郎氏と矢野大和氏）

第2日目は、年間400回を超える口演実績がある矢野大和「笑学校」校長が主役で登壇。「『笑学校』の理論と実践 インタビュー・ダイアローグ＆『笑学校』の教育実習」という3部構成の特別企画。2時間以上にわたって対談・実習・講評が展開された。具体的な実践 「笑学校」の教育実習・・笑わせたいわ笑学生三浦佳代子さんの発表には驚かされた。 故あって暴力団組長宅を訪れ逆に組長を感服させたこと・放浪生活者との出会いから近所の住人達と一緒になって温かく見守り支えた話等。話し方教室（笑学校）では、教室生は、まず初めに「辛かったこと」・「人前では口に出しては言えないこと」を語り、それを互いに聞き合うという。「心を開いて語り、互いに思いを共有する」ということか。「笑い」は人々を和ませ、人々をつなぎ、時に人々を救うこともできる。コミュニケーションや教育における「笑い」の効用に改めて気づかされた。

普段の活動と第34回生涯教育実践研究交流会に発表参加して

萱島 かよ　（3期生）　　国東市教育委員会 社会教育 社会教育係

（学びの教室）

国東市では、「地域の子どもは地域で育てる」教育の里づくりを市の目標の一つに掲げ、地域総ぐるみの協育の創造を進める中、平成23年度より学校・家庭・地域の三者による「国東市協育ネットワーク推進協議会」を立ち上げ『学校、家庭及び地域社会が連携・協働して**「学校支援」「放課後子どもの教室」「学びの教室」**の3つの事業を市内全域で推進しています。「学校支援」は学校の要望に合わせて、授業にゲストティーチャーや補助員などをしてくださる地域人材を派遣する。という事業で、学校の要請に応じて地域の方をご紹介しています。2つめの柱「放課後子ども教室」は工作や料理教室、スポーツ教室など様々な体験活動を各小学校ごとに月に一度開催しています。3つ目の柱「学びの教室」は地域の、主に教職を退職された方にご指導をいただき、ドリル学習を中心とした補充学習を実施しています。

（放課後子どもの教室）

（生涯教育実践研究交流会）

第34回 生涯教育実践研究交流会報告では、私が担当している国東町の小学校の「放課後子ども教室」と国東市内の小学校の「学びの教室」についてご報告いたしました。全市で始まったのは平成23年度からですが、私が担当している国東町は平成16年から放課後子ども教室、 平成22年から学びの教室を実施しているので、発表資料をまとめることで、この12年間で大勢の方にお世話になったなぁ…何年もの間に実状に合わせて変わってきたことも沢山あるなぁ…と感慨深く思い返すよい機会になりました。放課後子ども教室は私が企画・運営します。 地域の各方面のプロに指導をお願いして、学校では体験できないような内容の様々な体験活動を行っています。参加した子どもたちは、目を輝かせて先生の話に耳を傾けます。 ただ楽しければいいという内容ではなく、国東の地域や海産物、農産物、加工品を知ったり、地域の方とふれあう良い機会になるように、楽しい中に学びがあるような仕掛けを考えています。 学びの教室では、地域の指導者（退職教員が主体）が市販のドリルや現役の時にまとめた、手づくりのプリントなどをおりまぜて、とても熱心に指導をしてくださっています。その子に応じた細やかな指導や繰り返し学習や学び直しができ、つまずきに素早く対応できるので、基礎学力が確実に伸びていると思います。学力調査でもその成果が表れていて、年々右肩上がりに推移しています。週に一度学校に出向くのですから、大変だと思いますが、退職後の生きがいだと言ってくださる方が多く、とてもありがたいです。地域の先生方には本当に感謝しています。このような地域の先生方の活動が評価を受け、国東町の学びの教室が昨年度、優れた『地域による学校支援活動』として文部科学大臣賞を受賞いたしました。 この事業を実施することにより、以前より家庭・学校・地域が連携し、地域の教育力を生かした地域総ぐるみの子育てが出来ていると実感しています。年を重ねる毎に見直し、改善し、着実に効果を上げていると感じる一方、まだまだ課題も残しています。今後、この事業が途切れることがないように、事業推進に努めたいと思います。